



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



## 大阪部会 (No.87)

日時:	2023年 12月 9日 (土) 15:00 - 17:05
場所:	同志社大阪サテライト+ZOOM会議
参加者:	参加27名(会場19名、zoom9名)

### 【内容要旨】

今回は、今年1月末の第82回以来の大阪部会単独開催である。長年参加いただいている先生方から若手の先生方への呼びかけもあって初めて参加された方も多く、全員の自己紹介から第87回は始められた。

最初の報告は、初参加の前田一恭氏（交野市立第四中学校）による「経済的視点から学習するアジア州」と題する実践報告であった。中学1年地理のアジア州の単元において、経済的視点をメインに学習する内容である。まず、単元を貫く課題を生徒自身に設定させるために、4つの資料を与え、そこから読みとれたこと、疑問に思ったことをまとめる作業から始められる。資料からは、世界でもアジアの成長が大きいことが読み取れ、なぜアジア諸国が成長したのかという問いが学習課題として設定される。その理由を考える最初の例として韓国から取り上げ、工業化、人口推移、ソウル一極集中などが、経済成長にどう影響しているかを考察させる。その後、中国、インドネシア、カタール、UAEなどへと対象国を広げ、成長理由も様々であること、成長している国々にもいろいろな課題があること、などを理解させる。そして最後に、「アジアはなぜ急速な経済成長をとげてきたのか」という単元レポートを書かせている。

報告に関連して、篠原総一氏（経済教育ネットワーク代表）から、2024年3月23日に慶応義塾大学で開かれる「春の経済教室」で国際経済をとりあげることが告知された。

次に、こちらも初参加の田沼亮人氏（明石市立錦城中学校・兵庫教育大学大学院）から「知識構成型ジグソー法により認識を深める経済学習」が報告された。ジグソー法を使って、需要・供給と価格との関係を、身近な例からスタートして抽象的概念を理解させようとした授業である。クラスを6人ずつのグループに分け、USJの入場価格、明石だこの価格など、生徒が関心のもてる6つの価格の変化やその背景を考えるための資料を与え、グループメンバーで分担して学習する。買い手（需要）側に理由がありそうな価格変化があれば、売り手（供給）側に理由がありそうなものもある。学習内容をグループに持ち帰り共通知識を得た上で議論し、それぞれの価格変化の理由について考察する。その後、教科書にある需要曲線、供給曲線の学習に進み、具体例から概念を定着させるように構成されている。

報告に対して、篠原代表から高く評価するコメントがあった。ただ、丹松美代志氏（大阪学びの会）から、グループ学習は6人より4人の方がよいとの意見が出され、田沼氏からジグソー学習の学習資料を増やすためもあって6名にしたとの説明があった。

三番目は、河原和之氏（立命館大学等）から2つの授業案が紹介された。1つめ「ホテル代の高騰から価格メカニズムを考える」では、まず最近の日本の旅行パンフでホテル代の金額が明記されておらずQRコードになっている話題から始められる。生徒に、関心のある地域や施設近辺のホテル代の動向を調べさせると、全国的に値上がりしており一部には異常な高騰がみられることが確認される。なぜなのかを考えたとき、生徒からも訪日外国人旅行者の増加がすぐにあがることから、コロナ前から現在までの推移表す資料を与え、需要と供給のバランスと価格の関係を考えるよう議論を深める。さらに近年の、価格QRコードの話題に戻し、その理由を考えさせる。その結果、今はホテルの需給の予想が難しく、



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



その時々需給に応じてホテル代はより柔軟に変化していることまで、生徒は理解を深めることができる。

河原氏の2つめ「ダイヤモンドが産出されたら？～コンゴ民主共和国とボツワナ～」では、ダイヤモンドの産出国であるコンゴとボツワナを比較し、政府の役割を考えさせようとしたものである。コンゴは、ダイヤモンドだけでなく多くの地下資源が豊富に産出されているのにもかかわらず、内戦や近隣国もまきこんだ民族紛争などにより、多くの犠牲者が生まれ“紛争ダイヤモンド”“血塗られたダイヤモンド”と呼ばれている。それに対してボツワナは、国土はせまく人口は少ないけれど、ダイヤモンド輸出で得た利益をインフラ整備、教育投資などの形で国民に還元し、経済成長率も高い”小さくてもキラリと輝く国”と呼ばれている。生徒たちが議論した結果、その違いは政府にあり、法の支配に基づいて人権や自由の保障された、国際的に開かれたボツワナのような国の良さが理解できる授業である。

質疑では、なぜ両国の法制度がこれほど違ったのか、その歴史的経緯や背景を知りたいという意見があった。また篠原氏から、両国の一人あたりGDPを比べるとよい資料になるとの助言があった。

四番目は、関本祐希氏（大阪府立市岡高等学校）からの2つの実践報告である。1つは高校1年地理総合での「経済的視点から学習する比較地誌—オーストラリアでは自動車がつくられていない？」で、オセアニア、東南アジアの学習のあとの、比較地誌の時間に実施された授業である。オーストラリアでは、現在自動車が生産されておらず、大部分タイから輸入されている。その理由を調べ考えるために4人グループに分かれたジグソー学習が使われ、人口や貿易協定などの資料を読み取り、共通知識をもとに議論し、考えをまとめる授業構成になっている。

2つめの「生徒が知りたいことから始める社会保障学習」は、高校3年の政治・経済で実施された社会保障単元の授業であり、他者の意見もふまえながら自ら考え年金制度を選択できるようになることが目指されている。まず、年金について知っていること、気になっていること、疑問に感じていることを書かせるアンケートから始め、生徒の関心を高め関心を確認する。それをふまえた上で、年金の基本的な考え方や制度を、資料にもとづき教師が解説する。知識理解のうえで、賦課方式と積立方式の選択を中心に、どのような年金制度が望ましいのかを、生徒が考え選択できるように構成されている。その過程で、学習内容や意見に対して、教師からのコメントを返したり、他の生徒の意見を紹介したりすることによって、生徒のモチベーションを高める工夫が施されている。

1つめの報告に対しては、河原氏からなぜオーストラリアへの自動車輸出がインドからではないのだろうかという疑問が出された。関本氏からは、輸送距離の問題や、自動車関連の集積、タイとオーストラリアの貿易協定が、篠原氏からはインドで生産されている車種の問題が、可能性のある理由として説明された。その他、李氏（大阪市立矢田南中学校）から、両授業とも3観点評価をどのようにしたかとの質問があった。

4氏からの報告のあと、李洪俊氏から、毎年報告いただいている高校入試問題の分析資料が、森下将悟氏（大阪市立梅花中学校）からは自身のテスト問題をまとめた資料が配布されたが、説明の時間が限られ、次回以降に持ち越された。

(文責：野間敏克)

✓テスト問題 (新テストなど)	✓中学 小学	✓高校	指導案	新聞教材(NIE)
--------------------	--------	-----	-----	-----------

次回開催予定：2024年2月24日(土)15:00～17:00、場所形式未定